

樋井川流域住民の川への意識調査

福岡大学大学院部 学生員○松村百恵 福岡大学工学部 正会員 渡辺亮一
 福岡大学工学部 正会員 山崎惟義 福岡大学工学部 正会員 林義晃

1. はじめに

近年、住民のモラルの低下による河川へのゴミのポイ捨てや、粗大ゴミの不法投棄が問題視されている。河川のゴミは、河川の景観を損ねるだけでなく、海へ流出して漂着ゴミとなり、海洋汚染や海の生態系の破壊等の様々な問題を引き起こしている。また、海岸の漂着ゴミの発生源の約3割が河川からの流出となっており、河川のゴミを減らす抜本的な対策が必要となる。

本研究で対象としている樋井川において、著者らは地元住民でつくる樋井川楽しむ会の方々と5年前より月1回、樋井川の中流域で清掃活動を行ってきた。しかし、5年前と現在のゴミを比較してもその量は減るどころか、むしろ増えている現状にある。私たちの清掃活動からも分かるように、川のゴミは清掃を継続的に行ってもゴミは減少しないのが現状である。これは流域住民の川への関心がなくなってきたことが考えられ、対策を考えることが必要である。

そこで本研究では、樋井川流域住民の川への意識調査により川と川ゴミへの関心を知る。また、ゴミの組成調査より、その特性を明らかにし、樋井川流域住民の川への関心は川に捨てられたゴミの量と関係があるかを考察することを目的とする。

2. 研究概要

川ゴミの組成調査は樋井川中流域で行う定期清掃と、樋井川全域を上流から下流まで各15地点に分け同時刻一斉に行う樋井川一斉環境調査に平行して実施した。

3. 研究方法

(1) アンケート調査

樋井川の川と川ゴミに対する住民の意識を把握するため、2008年10月から約2ヵ月に渡って樋井川流域住民の方や、樋井川に関わりのある方を中心にアンケート調査を実施した。アンケートはA4用紙3枚で構成されている。アンケート内容は、属性・川(ゴミ)への関心・スーパー、コンビニの利用状況から成る(表1)。調査方法は、樋井川流域の公民館、小学校、高校、大学、城南区役所職員には留置調査法で回収した。また、城南区役所利用者には、聞き取り調査を行った。アンケートの回収部数は全部で965部となり、樋井川についての回答が行われたアンケートは463部となった。

(2) 組成調査

河川清掃時において、数人で1グループとなり、一人がチェックシートにゴミの種類と個数を記入する。ゴミの種類は、レジ袋・プラスチック類・紙類・金属類・タバコなど、11項目に分けた。レジ袋に限り、スーパー、コンビニ

エンスストア(コンビニ)に分け調査を行った。

表1 アンケート調査の設問内容

項目	内容
個人属性	現住所、年齢、性別、職業、居住年数、身近に感じる川、現住所から河川までの直線距離、河川へ出かける頻度、河川へ出かける目的、河川に対するイメージ
川(ゴミ)への関心	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ最近(一か月以内に)川ゴミを捨てたか ・川に散乱したゴミを気にしたことはあるか ・川に関心もてるようにするためには何が必要と思うか ・ここ1年間に川の清掃活動に参加したことはあるか ・今後川への清掃活動に参加したいと思うか ・河川に何を期待するか
スーパー・コンビニエンスストアの利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用頻度 ・良く利用する店舗名 ・良く利用する店の場所 ・利用目的
対策	・エコバックを利用しているか

4. 結果・考察

(1) 樋井川流域住民の川と川ゴミへの意識

アンケート調査より「川に散乱したゴミを気にしたことがあるか」という質問に対して、「気にしたことがある」と答えた人が82%、「気にしたことがない」と答えた人が15%と流域住民の大半が川のゴミを気にしていることが分かった。また、川に出かける頻度は「よく出かける」と答えた人が57%、「出かける」と答えた人が13%、「行かない人」と答えた人が25%と、約7割が何らかの目的を持って川に出かけており、樋井川流域住民の川と川ゴミへの関心が高いことが分かった。

しかし川への関心は高いが、川ゴミを気にしたと答えた人でもここ1年間に川の清掃活動に参加していると答えた人の割合は低いことが分かる(図1)。図2は、「川へ出かける頻度と、ここ1年間に川の清掃活動に参加したことはあるか」を比較したものである。この図から「よく出かける」と答えた人の方が、「出かける」と答えた人よりも、清掃活動に参加した割合が低いことが分かる。これは、出かけると答えた人が、川に目的を持って行く割合が高く、よく出かけると答えた人が、川の近くを通ると答えた割合が高く、よく出かけるからといって川に目的を持って行っているわけではないことが分かる(図3)。これらのことから、樋井川流域住民の川と川ゴミへの関心は高く、川に出かける頻度は多く、普段から川を見てはいるが、清掃活動に参加するなど積極的に行動には移していないと考えられる。30代の女性から「以前、清掃活動に参加したことで、子供が散歩する際に川ゴミを気にするようになった。」という意見があり、清掃活動に参加した人は、川に関心を持ち、ゴミを捨てないということが考えられる。また「出かける頻度と今後川へ

キーワード：川ゴミ、都市河川、河川清掃、意識調査

連絡先：〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1 福岡大学 大学院

電話番号：(092)-871-6631 内線<6462>

の活動に参加したいか」の比較を見ると、出かける人が積極的に参加したいと答えた割合が高かったが、行かないと答えた人は参加したくないという割合が高く、もっと川に近づきやすくするようなイベントが必要であると考えられる。

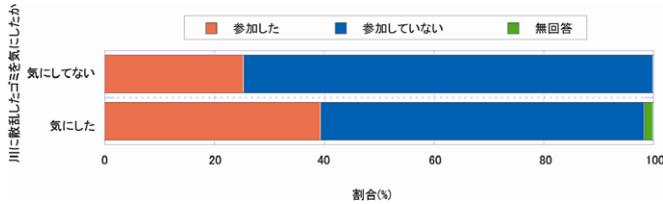


図1 川に散らしたゴミを気にしたことがあると川の清掃活動に参加したことはあるかの比較

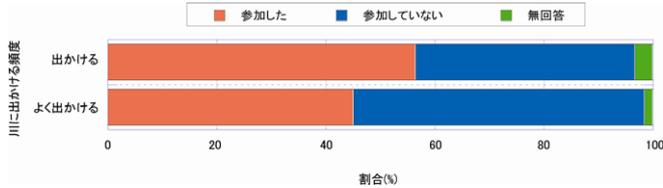


図2 川へ出かける頻度と川の清掃活動に参加したことはあるかの比較

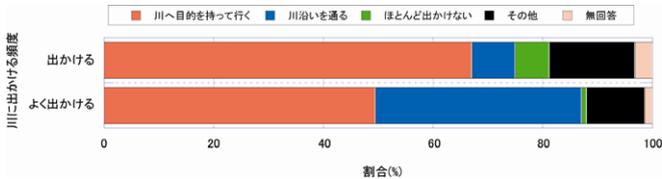


図3 川へ出かける頻度と川へ出かける目的の比較

(2) 流域住民と捨てられたゴミの量の関係

図4は、これまでの川ゴミ組成調査で得られたゴミの割合を示している。この図より、樋井川の川ゴミは、菓子袋類などのプラスチック類、レジ袋が多く、続いて金属類、紙類とタバコの吸殻が同じ位の割合を占めており、レジ袋はコンビニの割合が高いことが分かった。このことから樋井川の川ゴミの特性は、コンビニ由来のものが多くと考えられる。そこでアンケート調査より、コンビニの利用頻度を見てみると、週1日以上利用していると答えた人は約7割を占め、利用頻度の割合が高いことが分かる。また図5より、コンビニでよく買うものは弁当やおにぎり、飲料水、お菓子の割合が高く、レジ袋を要するものをよく買っていると考えられ、樋井川の川ゴミと関係していることが分かる。川ゴミ多くみられるレジ袋を削減する方法としては、エコバックを利用することが考えられる。アンケート調査より樋井川流域住民のエコバックの利用率を見みると、エコバックを利用している人は全体の55%と約半数を占め、利用していないと答えた人でもレジ袋をもらわないと答えた人もおり、樋井川流域住民の環境意識は高いことが分かる。また、川に出かける頻度の多い人、清掃活動に参加した人はエコバックを利用している割合が高いことから、川への関心の高い人は、エコバックを利用していることが分かった。しかし図6より、20代は20%、10代は47%と若年層の利用率が低いことが分かる。また、20代は家から川への距離が遠く、川に出かける頻度が少ない人が多いことと、散らしたゴミを気にした割合と今後清掃活動に参加したいと答えた人の割合が他の年齢層より低いことから、若年層(特に20代)の川への関心が低いことが、川のゴミに大

きく影響していると考えられる。したがって、川ゴミの対策として、若年層へ向けての環境啓発が必要だと考える。

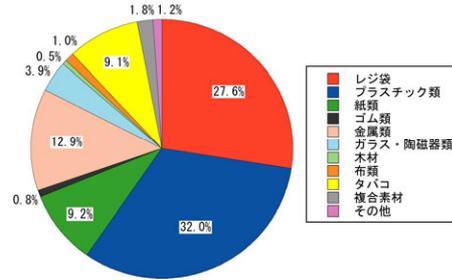


図4 樋井川川ゴミ全体組成 (2006~2008年)

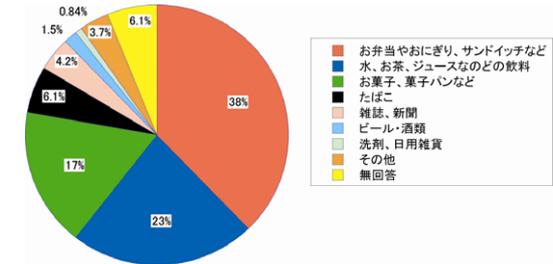


図5 コンビニでよく買うもの

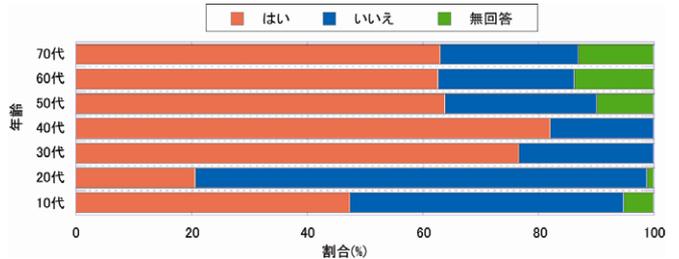


図6 年齢とエコバックを利用しているかの比較

5. まとめ

今回のアンケート結果より、樋井川流域住民の川と川ゴミへの関心は高いが、実際に清掃活動に参加するなど、川ゴミ問題を解決するための行動に移している人は少ないことが分かった。その中でも若年層(特に20代)の川への関心が低く、川ゴミの原因としては、若年層の川への関心が少ないことが大きく影響していると考えられる。対策として、今後の河川に何を望むかという質問より、「景観が美しい川」「多様な動植物が生育・生息する川」という意見の割合が多いことから、生き物調査、ゴミ実態調査などを含めた一斉調査などの、実際に川に入り、川に関心を持てるようなイベントを行うことが必要であると考えられる。また、今回アンケート調査を実施させていただいた草香江小学校では樋井川を対象に環境学習を行っており、川への関心が高くなっていった。このことから幼少のころから環境学習を充実させ、環境意識を植え付けさせることが大変重要であると考えられる。今後も樋井川定期清掃を継続し、流域住民への環境啓発を促していきたいと考えている。

参考文献

- 1)高辻伸彰：都市河川の川ゴミ清掃にみる地域ポテンシャルに関する研究 - 福岡大学大学院工学研究科修士論文, 2007.
- 2)太田泰弘：都市河川における川ゴミ実態解析 ～福岡市・樋井川を対象に～ - 福岡大学工学部卒業論文, 2007.